

Title	慶應義塾大学経済思潮講演会
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.9 (1921. 9) ,p.1359(147)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑報
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19210901-0147

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

しなければならぬことはない、殆んど何等古生物學から材料を借用することなしに、民族學の方面からも工業的發達の諸相を解明し得ることを明かに教へて居る。道具の發達にしろ、衣服の發達にしろ、住居の發達にしろ、我々は著者の豊富な蘊蓄を明快な記述によつて窺ふことが出来るが、就中、その先史的諸相と諸民族の生活の研究とは吾々を啓發することが頗る多い。第三篇は労働の發達史である。第一章に於いては閉鎖的遊群或ひは同族のそれより、十九世紀の末葉晚期資本主義的相に至るまでの労働組織の變遷を述べ、第二章に於いてはこれ等の組織の組立を一同族組合、二家族的家政、三外部取引、四主君的大家政、(家内生産、賦役地、莊園)、五自由職業(資本主義的に組織せられぬ労働)、六資本主義的企業、七社會化せる經營に分けて論じてゐる。次ぎに第三章に於いては性的分化、男子の分化、女子の分化に就いて自然民族との比較研究、近代文化との關係を明かにし、第四章第五章の兩章に亘つて在來の經濟學的段階説に

批判を加へてゐる。さうして第四篇に於いては文化進歩の諸原因と題して、經濟發達の諸原因と進歩の一般的諸原因を明かにし、第五篇并びに第六篇に於ける概括的記述と結論的叙説とを以て本書を終つてゐる。

本書の價値に就いては、ライプツヒ大學のバルト教授が言つてゐるやうに「智識階級に廣く理解さるゝ最良の社會學概論」と言へるであらう。それだから文化生活に就いての學的常識を養ふ爲にも、また吾人が文化の潮流に於て婦人運動が如何に重大な轉機であり、將來大凡如何なる方向に進むべきやも知り置くことは必須なる近代的自覺であると思ふ、といふ翻譯者の言葉が簡單であるけれども十分述べ盡してゐる。自分は今譯者の努力によつてこの譯書を些かの拮据晦澁を感じないで讀み得ることを喜び江湖に紹介したいのである。

園 乾 治

雜 報

慶應義塾大學經濟思潮講演會

慶應義塾は昨年の例に倣ひ、八月一日より同八日に亘り、構内大講堂に於て經濟思潮講演會を開催せり。講師及び其の演題左の如し

經濟思潮總論及び自由主義

- | | |
|------------|---------|
| 科學的社會主義 | 氣 賀 勘 重 |
| 講壇社會主義 | 小 泉 信 三 |
| 國家資本主義 | 阿 部 秀 助 |
| 社會連帶主義 | 堀 江 歸 一 |
| ギルド社會主義 | 増 井 幸 雄 |
| 社會的理想實現の計畫 | 三 邊 金 藏 |

高橋誠一郎